

第 37 回土木計画学研究発表会(春大会)：2008.6.6~7(北海道大学)
 企画論文部門，若手研究者論文部門 セッション討議内容の記録

セッション名：ソフト面から見た自転車交通対策や利用者の意識	
日付： 6月 6日 金曜日，セッション時間：15：45～17：15	
オーガナイザー・司会者名(所属)：元田良孝・宇佐美誠史(岩手県立大学)	
討 議 内 容	<p>セッション全体：</p> <p>放置自転車問題への対策と自転車の走行空間整備のバランスについて議論があった。今の駐輪の現状をふまえると、自転車の走行環境をよくすると自転車のシェアが増えて、さらに放置自転車を初めとした駐輪問題が悪化するのではないかという問題提起があった。</p> <p>その意見に賛同して、放置自転車対策のほうに重みを置いたほうがよいという意見があった。また、まち全体として自転車利用環境を向上させるのは大事だが、歩行者が快適に歩けなければならぬので、時代に逆行するおそれはあるが自転車をやめる選択肢もあるという意見もあった。駐輪場を中心としたネットワークを構築することが重要という意見があった。</p>
	<p>(発表番号) 発表者名(所属)：152 元田良孝(岩手県立大学)</p> <p>自転車の問題には道路の環境整備と法律の整備、教育の3者が関わっており、特に、道路環境と法律(道路交通法、道路構造令など)には自転車利用を安全かつ円滑に進めるための問題が多数存在することが紹介された。</p>
	<p>(発表番号) 発表者名(所属)：153 大庭哲治(京都大学)</p> <p>本来駐輪容量のあるところでの放置自転車の問題かなど、この研究での放置自転車の定義について質問があった。公共交通があっても自転車で来て駐輪場以外の路上に停めるものを指すとの回答があった。通勤者の長時間駐輪へのモデル適合性についての質問に対しては、必ずしも適合しないとの回答があった。</p>
	<p>(発表番号) 発表者名(所属)：154 羽鳥剛史(東京工業大学大学院)</p> <p>コミュニケーター(駐輪場の広報をする者)はコストがかかるので、違法駐輪自転車撤去と駐輪場の広報とどちらがよいか、リーフレットの配布だけとコミュニケーターを加えることの相乗効果に関して質問があった。事例によるが、コミュニケーターの方が導入が容易で、相乗効果も見込まれるとの回答があった。</p>
	<p>(発表番号) 発表者名(所属)：155 飯田克弘(大阪大学大学院)</p> <p>駐輪について意識啓発の効果の定量的な把握について質問があり、対象エリアからは違法駐輪は減ったがエリア外は増えた。また、啓発をしても従わない人、逆に反社会性に気づく人もいるが効果の持続には課題があると回答があった。</p>
	<p>(発表番号) 発表者名(所属)：156 宇佐美誠史(岩手県立大学)</p> <p>研究のこれからの方向について質問があり、現在教育関係者を入れて教育プログラム作成を検討する組織づくりをしているという回答があった。教育の中に高齢者や歩行者など他者への配慮を入れるとよいというアドバイスがあった。</p>